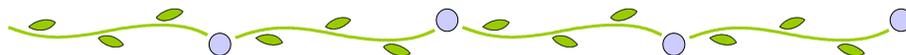


# 市川を調べる

発行 八戸市立市川公民館(木村 隆一)  
市川を調べる会(会長 星 一郎)



## 市川昔がたい④

### 明治初期の学校事情

多賀台 奈良孝次郎

#### 【ふたつの学校】

明治政府は、日本の近代化を進めるために学校教育を重視し、学制を出した。そして、全国の各地域に小学校をつくり、やがて義務教育とした。市川村には二つの小学校、つまり**轟木小學**と**下市川小學**ができた。明治10年の記録である「三戸郡誌」にはつぎのように出ている。「公立小学二所、一ハ本村の東端、生徒男四十八人、女四人。一ハ新田ニ在リ、生徒男六十三人、女二人」

#### 【女生徒は少なかった】

これを見ると、両方とも男子にくらべて女子はずい分少ない。このことは市川に限らずどの地区においてもほとんど同じだった。女子に対しての偏見があり、「女子に学問は要らない。家事、家業を手伝えばそれでよし」と考えられていた。轟木小學の場合、20年後にやっと男女同数ぐらいになっている。(下表参照)

#### 【生徒の様子】

生徒の服装は男女ともみんな着物、はき物はぞうり(冬はわらぐつ)。記念写真で見ると、男子の多くはちょんまげだったようだ(野辺地小学の場合)。弁当持参で、その中にはヒエめしとうめぼし・ヒエめしは、ぼろぼろで、ゆびですくって食べた。

轟木小學には藤澤茂助という名物校長がいた。もとは会津藩士で、読み方や書き方を指導したが、きびしいことで知られていた。

#### 【すぐれた学校あり】

当時の市川地区の学校は、三戸郡内でも良く行われていたようで、文部省への教育事情報告書の中にも特記されている。「部内に記すべき小学二あり」として轟木小學と下市川小學をすぐれた学校としてあげている。このことは教える側がよくやったということと共に、それを受け入れた地元の教育に対する結果だと思われる。 参考：\*「聞き書き多賀の百年」 \*轟木小学校百周年記念誌「とどろき百年」

\*「轟木小学校90周年記念誌」 \*「八戸教育史」 \*「八戸・三戸の100年」

轟木小沿革史より

### 轟木小學在籍児童数の変遷

木村隆一 作成

年度	男子	女子	創立後～年	備 考	年度	男子	女子	創立後～年	備 考
明 9	34	2	0	男子は女子の17倍	明 32	88	73	23	男子は女子の1.2倍
18	90	31	9	〃 〃 2.9倍	33	89	87	24	女子 ≒ 男子
31	82	46	22	〃 〃 1.8倍	34	96	102	25	女子 > 男子